

2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月13日

上場会社名 株式会社カヤック 上場取引所 東
 コード番号 3904 URL <http://www.kayac.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 柳澤 大輔
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 柴田 史郎 (TEL) 0467-61-3399
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (個人投資家向け、証券アナリスト・機関投資家向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績 (2023年1月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	12,594	9.1	736	△20.3	827	△17.1	489	△24.3
2022年12月期第3四半期	11,539	28.7	924	10.7	999	11.9	647	9.8

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 512百万円(△22.8%) 2022年12月期第3四半期 662百万円(△3.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	30.69	30.27
2022年12月期第3四半期	41.86	41.52

(注) 2022年12月期に行った企業結合に係る暫定的な会計処理が2023年12月期に確定したことに伴い、2022年12月期の連結財政状態を遡及修正しています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	11,483	6,110	48.2
2022年12月期	10,980	5,336	43.9

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 5,540百万円 2022年12月期 4,821百万円

(注) 2022年12月期に行った企業結合に係る暫定的な会計処理が2023年12月期に確定したことに伴い、2022年12月期の連結財政状態を遡及修正しています。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	3.90	3.90
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	3.90	3.90

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想 (2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,200	10.3	1,350	11.4	1,350	10.7	850	8.5	54.6

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期3Q	15,993,400株	2022年12月期	15,953,800株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	187株	2022年12月期	187株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期3Q	15,967,847株	2022年12月期3Q	15,468,022株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における予測値及び将来の見通しに関する記述・言明は、当社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営の内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社将来予測のいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復の兆しが見られ、個人消費や雇用情勢も緩やかな持ち直しの動きが続いています。内閣府は2023年10月の月例経済報告において、景気の先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されますが、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっていること、また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があると指摘しております。

当社グループを取り巻く事業環境としましては、当社が注力するインターネット広告市場の2022年の市場規模は前年比14.3%増の3兆912億円となり、継続して高い成長力を保っております(出所：電通「2022 日本の広告費」)。また、一般社団法人日本eスポーツ連合によれば、国内eスポーツ市場規模は2021年に前年比15.1%増の78.4億円となり、2022年は116.1億円、2023年は129.4億円と高い成長率で拡大する見込みです。

このような事業環境の中で、当社グループはより多くのユーザーに楽しんでいただけるよう良質なデジタルコンテンツを提供し続けております。その中でも、面白プロデュース、ゲームエンタメ、eスポーツ、ちいき資本主義の4つを主要サービスと位置づけ、相互にシナジーを図りながら事業を進めてまいりました。また、その他サービスとして、SNSブライダルプラットフォームなどの新規サービスの開発及び投資を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は12,594,839千円(前年同期比9.1%増)、営業利益は736,824千円(前年同期比20.3%減)、経常利益は827,929千円(前年同期比17.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は489,981千円(前年同期比24.3%減)となりました。当社グループの事業セグメントは単一セグメントであります。サービス別の売上高の概況は次のとおりであります。

① 面白プロデュース

新しい技術とアイデアに挑戦し、クライアントとその先にいるユーザーに新しい体験を提供することで、クライアントのマーケティング及びブランディングに資する広告を提供しております。スマートフォンの普及や新しい技術の出現を背景に、WEB領域にとどまらないリアルと連動した案件が増加傾向にあります。また、当社の企画力、技術力をもとにクライアントの新製品開発を支援する領域にも進出しております。しかしながら当第3四半期連結累計期間においては、コロナ禍を背景とした顧客のマーケットの動向や需要の変化などにより、顧客数の減少がみられました。この結果、面白プロデュース関連の売上高は1,294,091千円(前年同期比15.1%減)となりました。

② ゲームエンタメ

「ぼくらの甲子園! ポケット」、「キン肉マン マッスルショット」、ハイパーカジュアルゲーム、(株)カヤックアキバスタジオでの受託ゲーム開発が売上高の大部分を占めています。ハイパーカジュアルゲームにつきましては、当第3四半期連結会計期間に新作タイトル「Rolling Orb Crash」「Wrecking Smash」「Ragdoll Break」の3本を正式にリリースしました。新作タイトルを3本リリースしたものの、モバイルゲームのダウンロード数の成長速度が鈍化し、ダウンロード数は前年同期比では43.5%増となりましたが、直前四半期比では10.1%減の約8,022万件となりました。また、第1四半期連結会計期間よりメタバース専門部隊をその他サービスよりゲームエンタメサービスに変更しております。この結果、ゲームエンタメ関連の売上高は7,775,952千円(前年同期比13.8%増)となりました。

③ eスポーツ

ゲームファンに向けた一連のコミュニティサービスを展開しています。ウェルプレイド・ライゼスト(株)のeスポーツ事業並びにトーナメントプラットフォームの「Toname1」が売上高の大部分を占めております。当第3四半期連結会計期間におけるToname1の大会開催数は、コミュニティに寄り添った運営と海外市場での大会開催数の大幅な増加により、直前四半期比121.6%増の35,570件となりました。一方、ウェルプレイド・ライゼスト(株)では、eスポーツ市場は引き続き堅調な成長を見せる中、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、eスポーツを含むエンターテインメント全般のオフラインイベントが復活した結果、スポンサー企業のプロモーション戦略におけるeスポーツの占める割合が相対的に縮小傾向となったことにより、下期に開催を予定していた一部の案件において、クライアント企業に起因した案件の中止や規模の縮小が発生しました。この結果、eスポーツ関連の売上高は1,775,621千円(前年同期比6.4%増)となりました。

④ ちいき資本主義

地方公共団体や地域企業に対して、まちづくりに関するコンテンツの開発とサービスの提供を行っております。移住プラットフォームサービスの「SMOUT」、コミュニティ通貨サービスの「まちのコイン」、地域プロモーションの受託、

鎌倉市内で展開するまちづくり事業などのサービスが売上高の大部分を占めております。当第3四半期連結会計期間末時点で、「SMOUT」の累計登録ユーザー数は直前四半期末比4.1%増の5.3万人となり、順調に拡大しております。

「SMOUT」の導入地域数も当第3四半期連結会計期間末時点で直前四半期末比0.4%増の923地域となり、市場の上限である自治体数約1,700地域対しての導入率が54.3%となりました。また、当第3四半期連結会計期間末時点での「まちのコイン」の累計登録ユーザー数は、直前四半期末比13.0%増の8.8万人と、こちらも順調に増加しております。この結果、ちいき資本主義関連の売上高は562,829千円（前年同期比85.5%増）となりました。

⑤ その他サービス

ブライダルプラットフォーム「プラコレWedding」は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年上半期に業績が悪化した後、緩やかな回復基調にあります。不動産業である鎌倉R不動産(株)による季節要因などもあり、その結果、その他サービス関連の売上高は1,186,344千円（前年同期比1.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ503,681千円増加し、11,483,931千円となりました。主な要因は、ウェルプレイド・ライゼスト(株)の株式売却と税金等調整前四半期純利益計上による現金及び預金の増加670,250千円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少560,841千円、投資有価証券の増加171,018千円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ270,028千円減少し、5,373,900千円となりました。主な要因は、未払金の減少256,525千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ773,710千円増加し、6,110,030千円となりました。主な要因は、ウェルプレイド・ライゼスト(株)の株式売却による資本剰余金の増加284,296千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加427,762千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績見通しにつきましては、2023年2月13日公表の「2022年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の予想を変更しておりません。

今後、当社グループの業績に影響を与える事象が発生した場合には速やかに開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,132,068	4,802,318
受取手形、売掛金及び契約資産	3,037,435	2,476,594
仕掛品	101,934	93,362
その他	358,842	357,825
貸倒引当金	△5,851	△3,540
流動資産合計	7,624,428	7,726,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	885,640	872,665
土地	629,342	645,724
その他(純額)	98,407	115,858
有形固定資産合計	1,613,390	1,634,248
無形固定資産		
のれん	851,087	741,562
その他	314,273	256,967
無形固定資産合計	1,165,361	998,529
投資その他の資産		
投資有価証券	308,271	479,290
繰延税金資産	159,974	160,074
その他	205,590	608,743
貸倒引当金	△96,766	△123,515
投資その他の資産合計	577,069	1,124,593
固定資産合計	3,355,821	3,757,371
資産合計	10,980,249	11,483,931
負債の部		
流動負債		
買掛金	602,998	532,675
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	720,815	560,349
未払金	1,289,249	1,032,723
未払費用	283,861	328,202
未払法人税等	370,630	240,180
契約負債	146,622	166,903
受注損失引当金	13,632	—
その他	556,225	756,317
流動負債合計	4,284,036	3,917,353
固定負債		
長期借入金	1,317,413	1,425,777
その他	42,478	30,769
固定負債合計	1,359,892	1,456,547
負債合計	5,643,929	5,373,900

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	873,501	880,332
資本剰余金	1,005,541	1,295,917
利益剰余金	2,936,440	3,364,202
自己株式	△229	△229
株主資本合計	4,815,254	5,540,223
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,378	159
その他の包括利益累計額合計	6,378	159
新株予約権	43,103	49,055
非支配株主持分	471,584	520,592
純資産合計	5,336,320	6,110,030
負債純資産合計	10,980,249	11,483,931

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年9月30日)
売上高	11,539,579	12,594,839
売上原価	5,955,514	5,974,946
売上総利益	5,584,065	6,619,892
販売費及び一般管理費	4,659,554	5,883,068
営業利益	924,510	736,824
営業外収益		
受取利息	46	422
受取配当金	525	625
助成金収入	17,502	13,208
保険解約返戻金	4,242	32
為替差益	57,947	99,462
その他	4,078	6,347
営業外収益合計	84,343	120,099
営業外費用		
支払利息	5,773	5,016
持分法による投資損失	—	16,687
その他	3,964	7,290
営業外費用合計	9,737	28,993
経常利益	999,116	827,929
税金等調整前四半期純利益	999,116	827,929
法人税、住民税及び事業税	345,574	329,214
法人税等調整額	△15,175	△17,461
法人税等合計	330,399	311,752
四半期純利益	668,717	516,176
非支配株主に帰属する四半期純利益	21,206	26,194
親会社株主に帰属する四半期純利益	647,511	489,981

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	668,717	516,176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,746	△4,165
その他の包括利益合計	△5,746	△4,165
四半期包括利益	662,971	512,011
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	642,191	483,763
非支配株主に係る四半期包括利益	20,779	28,247

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、第1四半期連結会計期間において、連結子会社であるウェルブレイド・ライゼスト(株)の株式の一部を売却いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が284,296千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,295,917千円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったネイティブ(株)及び(株)Papillonは、2023年5月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

当第3四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であるウェルブレイド・ライゼスト(株)が(株)en-zinを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。